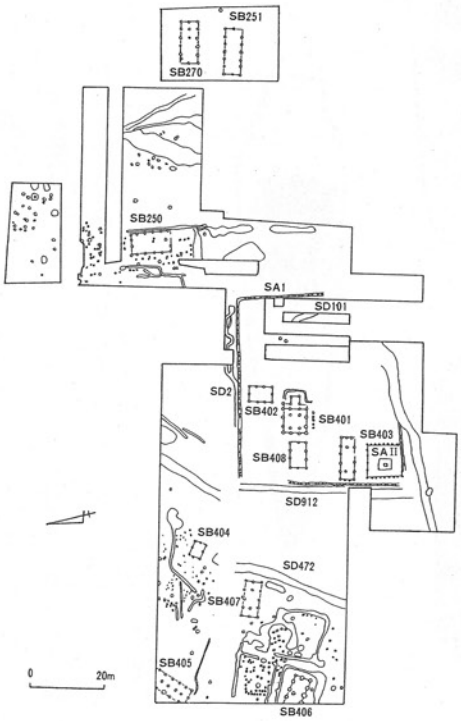
山形・大楯（おおだて）遺跡

1　所在地　山形県飽海郡遊佐町大字小原田字大楯・大槻
2　調査期間　第二次調査　一九八八年（昭63）五月～九月
3　発掘機関　山形県教育委員会
4　調査担当者　伊藤邦弘・庄司　功・岡部政宜
5　遺跡の種類　城館跡
6　遺跡の年代　鎌倉時代
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

大楯遺跡は、山形県北西部に広がる庄内平野の北端、遊佐町に所在する。本遺跡の北を西流する月光川の氾濫原と自然堤防上に立地し、標高はおよそ一六mである。発掘調査は、県営圃場整備事業に伴う緊急発掘調査で、一九八七年に第一次調査を行ない、木簡が出土している（本誌第一〇号）。今回の調査では、第一次調査に続く角材を用いた柵木列が南を除く三面で確認されたほか、柵木列に囲まれた内部に礎石建物一棟、掘立柱建物三棟、柵外部に四棟の掘立柱建物、井戸、溝などが検出された。特に柵木列内の礎石建物SB四〇一の特異な構造から、宗教的な色彩が強く感じられ、注目されるところである。二点の木簡が出土した遺構は、柵木列SA一西面の外に平行する溝SD九一二である。幅は一・七～二・八m、深さは二三～三〇cmを測り、長さは二八mまで確認した。その他の出土遺物には、多数の木製品と珠洲系陶器、かわらけ、青磁などがある。これらの遺物から本遺跡の主体は一三世紀と考えられる。



大楯遺跡遺構配置図

8　木簡の釈文・内容

(1)

・□ヨ□ロ□ハ□スジ
□リナ□□リナ□チヤ□ウ」
□ル□イ□ワ□ワ□ナ□ヲ
□ア□サ□ハ□又ジ□リ
□サ□ナ□ヤ□リチ□ヲ

(33)×(169)×3　065

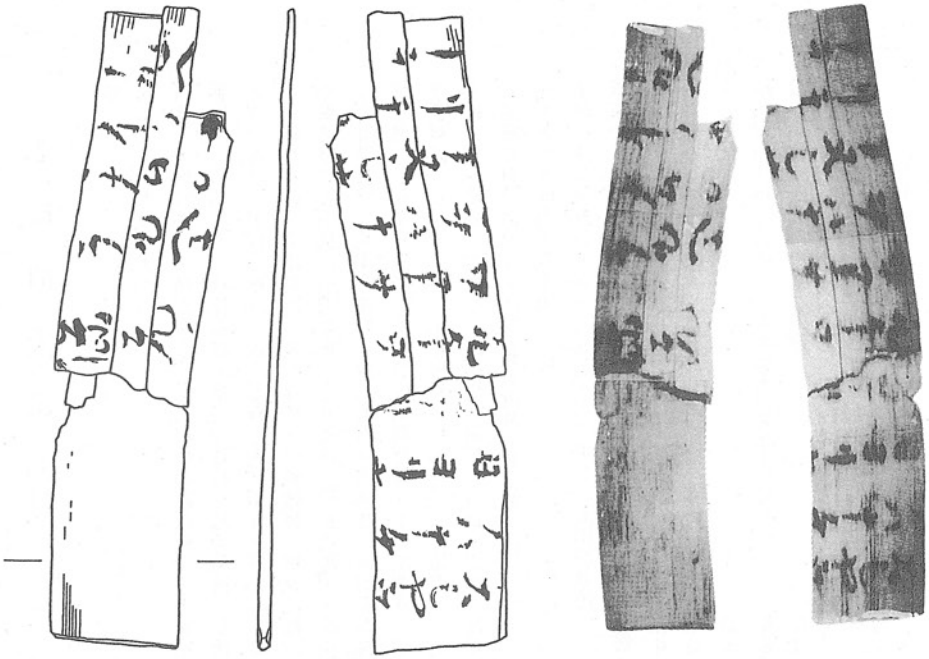
・□ク
□ル□キ
□ム□ル
□ナ□ラ
□イ□ク
□ル□
保元□

(56)×15×1　019

(2)「悲泣雨

(1)は両側面が欠損している。また上端についても欠損の可能性がある。木目に対し垂直方向に書かれている。文字の多くは片仮名であるが、裏面の最後に一回り大きめに書かれた文字は、「保元」と読み取ることが出来る。しかし本調査における出土遺物からは、保

(2)



(1)

0　10cm

元年間の所産と考えられるものは認められない。(2)については下端が欠損しているものの、文字自体は完結しているものと考えられる。

なお本遺跡は、遊佐町教育委員会によって第三、第四次調査が行なわれ、その重要性から保存されるに至っている。

木簡の釈文については、国立歴史民俗博物館の平川南氏のご教示を得た。

9 関係文献

山形県教育委員会『大楯遺跡第二次発掘調査報告書』(一九八九年)

(伊藤邦弘)

木簡研究第一四号

巻頭言　八木　充
一九九一年出土の木簡
概要　平城宮跡　平城京左京二条二坊坊間路西側溝　平城京東市跡
推定地　唐招提寺　藤原京跡　飛鳥池遺跡　四条遺跡　長岡京跡(1)
長岡京跡(2)　長岡京跡(3)　遠所遺跡　木津川河床遺跡　大坂城跡
住友銅吹所跡　桑津遺跡　竜華寺跡　高槻城跡　堺環濠都市遺跡
屏風遺跡　長田神社境内遺跡　宅原遺跡　袴狭遺跡(1)　袴狭遺跡(2)
(旧坪井遺跡)　光明寺遺跡　西河原森ノ内遺跡　西河原遺跡　湯ノ
部遺跡　石川条里遺跡　内匠日向周地遺跡　小茶円遺跡　富沢遺跡
多賀城跡　円福寺遺跡　田道町遺跡C地点　上荒屋遺跡　山田郷内
遺跡　稲城遺跡　吉野口(鯉山小)遺跡　三日市遺跡　長登銅山跡
空港跡地遺跡(第3工区)　雀居遺跡　興善町遺跡
一九七七年以前出土の木簡(一四)
平城宮跡(第五〇・五一・五二・六三次)　上田部遺跡
郡家今城遺跡　郡家川西遺跡　じょうべのま遺跡　高瀬遺跡
考古資料としての古代木簡　山中　章
八幡林遺跡等新潟県出土の木簡　小林　昌二
木上と片岡　岩本　次郎
下級国司の任用と交通—二条大路木簡を手がかりに—　鈴木　景二
「敦煌漢簡」研究の現状と課題　吉村　昌之
彙報

頒価　四五〇〇円　〒六〇〇円